



千葉大学柏の葉キャンパス 「植物工場」見学会のご報告



▲高気密・省エネドーム（人工光型）
極めて高い断熱性気密性を備えた特殊発
泡ポリスチレンドーム植物工場

集合時間より早めにご到着の皆様は学校側がご用意下さったお部屋で暫し休憩された後、2手に分かれて見学はスタートしました。この実証施設のメインは太陽光を利用したトマト栽培とLEDの蛍光灯を利用したレタス栽培かと思いますが、2班になった私たちは人工光利用のレタス栽培の棟からでした。

●レタス



何やら妖しげな色のLED灯で育てられているレタスは苗からは1週間で出荷できるようになるそうです。栽培棚には国内外のメーカーのLEDが名前表示で取り付けられており、其々による生育状態のデータが取られています。LEDの効力は価格に比例していますとか。レタスは1日3千株が出荷されているようですが、経費が負けてはおらず、まだ収益のあがるころまでは行っていないそうです。でも製品の、滅菌状態で育てられたレタスは、洗わなくてもいいというところが受け、サンドイッチなどの加工業者やレストランに重宝がられて人気があるそうです。

梅雨の真ん中6月29日に今年度の第一回実地見学会が実施されました。見学先は千葉大学柏の葉キャンパスの植物工場・果樹園・薬草園でした。当日の参加者は2名欠席の53名、むし暑い夏日でしたが雨にも降られずに予定の見学を終了できたのは幸いでした。



▲太陽光利用のトマト栽培棟を見る

●トマト

植物工場内では植物の生育環境（光、温度、湿度、風、水、栄養分等）はハイテクを駆使してコントロールされており、太陽光利用のトマトも水耕栽培で土は一切使用されていません。こういうところに突然、授粉担当の蜂が登場するのはなんだかローテクに聞こえて楽しくなります。トマトは生物だったと思わせられます。植物工場で作られたトマトは地元のスーパーでは「大学トマト」とネーミングされてそれなりの地位を得ているとのことでした。



この方法ではイチジクも栽培されていました。イチゴとはタイミングが合わず姿は見えませんでした。

●果樹園

千葉大柏の葉キャンパス近辺はまだ自然を色濃く残しており、夜にもなると野生動物の集合でここは動物たちの楽園さながらになるそうです。野兎、リス、狸、ハクビシン等々がやってくるので果樹園を守る側は大変です。カラスはネットで防げるようになったけど・・・と話して下さった方は長嘆息。果樹園ではぶどうが大きな実をたわわにつけています。上から房がぶら下がっている一般的な仕立て方と、低い位置に実がなるように組まれた畝もありました。いずれのぶどうも豊作のようでした。色づいてくれば袋掛けの仕事が待っています。

▼梨の原種



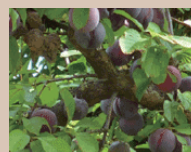
珍しいものに梨の原種の木がありました。木は直径2～2.5センチ位の長十郎梨に似た姫梨、いや若梨？をたくさんつけていました。この実は食べられませんが、香りは梨で、接ぎ木をすれば美味しい梨の実ができるとのことでした。

薬草園

天然資源である生薬の価格が近年は中国国内での需要の増加や人件費の高騰で跳ね上がってきており、輸入価格も厳しいものになってきています。そこでこのセンターの皆様は国産でよい生薬を作りたいと頑張っています。



この薬草園では普通に
馴染んだ植物の名前に
も多く出会いました。
これはキキョウです。



これは薬草園の後方の
藪に生えていたプラム
です。とても美味しい薬
でした。コラッ！（/、;）

キウイは今年は忙しくて授粉作業ができなかったそうで、その為うらなりになったのでしょうか、木に生っているのと同じくらい大量の実が間引かれてゴロゴロ地面に転がっていました。素人はつい、わっ勿体ない！と思ってしまうのでした。以上。（荒木・記）